

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：短期入所梅風園	種別：短期入所
代表者氏名：施設責任者 長島由美	定員（利用人数）： 48 名
所在地：〒305-0045 茨城県つくば市梅園2丁目17-11	
TEL：029-846-0188	ホームページ： https://www.tokyo-sola.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 平成30年5月1日	
経営法人・設置法人（法人名等）：東京空色株式会社	
職員数	常勤職員： 28 名 非常勤職員： 7 名
専門職員	看護師 1 名
	調理師 1 名
施設・設備の概要	（居室数） 48 室 （設備等）風呂・トイレ・食堂・厨房・ 事務所・面談室

③理念・基本方針

<p>1. 経営理念 日本に暮らす障がいをお持ちの方々を幸せにする。</p> <p>2. 行動指針 正しく、仲良く、楽しく。</p> <p>3. CS向上方針 ①顧客を正しく知る事 ②顧客の安心につながるサービスを提供する事 ③顧客と周辺関係者との対話を常に深化させる事</p> <p>4. ES向上方針 ①経営は人材育成と組織づくりにコミットする事 ②従業員とその家族の安心につながる仕組みを構築する事 ③コンプライアンス（法令遵守）を徹底する事</p> <p>5. 虐待防止の取組み 障害者虐待防止法に基づき、当社、当施設では、職員の研修の実施、利用者様やそのご家族からの苦情解決のための体制整備、その他の障害者虐待防止のための措置を講じていきます。</p>

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>自立生活、地域生活むけたステップ（階段）を細かく刻み、着実にステップアップできる環境を用意しています。まずはショートステイで状況の把握と生活訓練を行い、ご利用者様や保護者様が安心してグループホーム生活を始められるように支援を行っていきます。</p>

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 7年 4月 22日（契約日）～ 令和 7年 11月 28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（令和 4 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

職員の働きやすさとサービスの質向上を両立する体制が整えられている

・ICTを活用したアプリで業務満足度や人間関係、健康面のデータを毎月収集し、職員の状態を可視化することで、柔軟かつ的確なマネジメントが実現されている。また、年2回のチーム支援アンケート結果は経営会議で共有され、職員にも回覧されるなど、組織内の情報共有が適切に行われている。さらに、毎週の管理者会議に加え、日に2回の申し送りや社員ミーティングを通じて意見をすくい上げ、具体的な支援改善へと結びつけている。専門研修や動画研修も継続的に実施され、職員の成長が組織的に支えられている。

幅広い内容を盛り込んだアセスメントを作成して支援に取り組んでいる

・事業所では行政や相談支援事業所が作成するアセスメントに加え、独自のアセスメントシートを作成しており、利用者（家族）からの聞き取りや行政、相談支援事業所からの情報をもとに作成している。職員が一貫した支援を行うためのものとして活用しており、支援内容に関して、家族からは、口頭による同意を得ている。アセスメント情報を踏まえて、利用者の全体像を知り、その中の一部分を担っているとの認識から、ケース記録は次回のサービス等利用計画の参考につながるような内容とすることに力を入れている。

一人ひとりの生活スタイルを大切にした支援や環境調整作りに力を入れている

・事業所では、一人ひとりの生活スタイルを大切にした支援を目指しており、これまでの生活環境や背景、習慣、価値観などを尊重して、何を、どう支援することで、利用者が何を獲得できるかなどについては、利用者（家族）行政、相談支援事業所とのコミュニケーションを丁寧に行うよう心がけている。事前面談で得た情報はアセスメントシートに集約され、職員はそこから利用時の生活をイメージして、必要な支援、環境調整などに取り組むことにしている。また、地域の各種日中活動に通所する利用者については、アセスメント情報を共有して協働できる体制作りにも取り組んでいる。さらに、利用の都度、内容確認や修正を行い最新の状態を維持し、適切な生活支援が提供できるようにしている。

◇改善を求められる点

地域との直接的な交流機会の創出と社会資源の計画的な活用が求められる

・地域との関係性構築に向け、行政機関や関係団体、つくば子ども支援ネットとの連携や交流が進められており、ブログを活用した情報発信では、活動の様子を広く紹介しながら双方向のコミュニケーションにも配慮されている。しかしながら、利用者と地域住民が直接関わる機会は限定的であり、今後は交流の場を具体的に創出する取り組みが求められる。また、市の障害福祉課との連携体制はあるものの、自立生活センターや支援団体「スポーティア」など、地域に存在する多様な社会資源の活用は十分とはいえない。今後は、必要な資源を明確化し、計画的に連携体制を構築することで、地域との結びつきと利用者支援の充実が期待される。

マニュアルや個別支援計画の認識度や理解度をチェックする仕組みを構築されたい

・事業所は行政や支援事業所を窓口として利用者を受け入れており、それらの外部機関が作成したアセスメントや支援計画書に沿った支援を提供することにしている。利用者個々の支援内容について支援記録をはじめ朝夕礼での情報共有により標準化した支援が提供できるようにしている。また、各種の業務に係るマニュアルを設けており、入職時研修などを通じて周知を図り、約1か月後のタイミングでチェックする仕組みが整っているが、以降定期的に理解度や認識度などをチェックする体制作りにも取り組まされたい。

職員間の情報共有が適切になされているかを確認することが望まれる

・事業所ではケース記録をはじめ各種のチェック表（バイタルサイン、排泄・服薬・精神状況）を設け、利用者一人ひとりの生活の様子や心身状況を把握している。日々開催している朝夕礼をはじめ、利用者台帳はいつでも閲覧できるようになっており、定例の職員会議などにより、利用者情報を共有する仕組みが整っている。また、ケース記録や特記事項を読み込んでから業務を開始することにしている。さらに情報共有を充実させることを目的に、日々の申し送りや定例の職員ミーティング、PC、スマホ対応のコミュニケーションツール、イントラネットなどを導入しているが、適切な結果や成果が得られているかを検証されたい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度は、当事業所の取り組みに関して丁寧なご評価を賜り、誠にありがとうございます。職員の働きやすさとサービスの質向上を両立する体制、ICTを活用した職員の状態把握、情報共有の仕組み、継続的な研修体制などについて高くご評価いただきましたことは、職員一同の大きな励みとなります。

一方で、改善点としてご指摘いただいた「地域との直接的な交流機会の創出」「社会資源の計画的な活用」「マニュアルや個別支援計画の理解度チェック体制の構築」「職員間の情報共有の成果検証」については、当事業所としても重要な課題と認識しております。今後は、地域住民との交流の場を積極的に企画・実施し、行政機関や多様な支援団体との連携を強化することで、利用者支援の幅を広げてまいります。また、マニュアルや支援計画の理解度確認を定期的に行う仕組みを整え、情報共有の効果についても検証を重ねることで、より確実で一貫性のある支援を実現してまいります。

今回の評価を真摯に受け止め、今後も職員の成長と利用者支援の充実を両立させながら、地域に根ざした事業所運営を進めてまいります。

⑧評価細目の第三者評価結果（別紙）